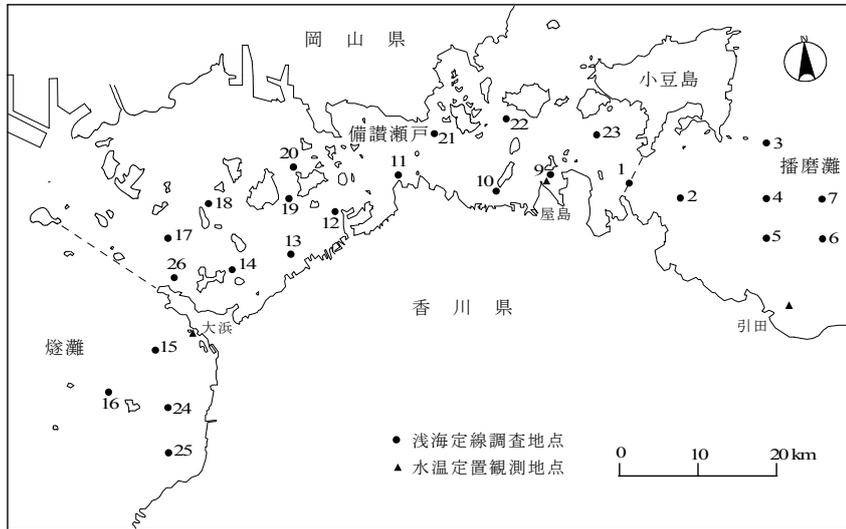


# 香川県漁海況速報 平成21年12月 (H21-9号)

香川県水産試験場

## 1. 海況

### 1) 観測地点



## 2) 浅海定線調査

### (1) 調査日

平成21年12月1日 (播磨灘), 2日 (備讃瀬戸, 燧灘)

### (2) 水質概況

平年と比較すると、水温及び塩分は「平年並みから著しく高め」、透明度は「平年並みからやや高め」、溶存酸素は「やや低めから平年並み」であった。

12月

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	18.9	18.1	18.0	32.4	32.4	32.4	8.6	5.18	5.15
	平年値	16.8	16.8	16.8	32.1	32.1	32.2	7.3	5.35	5.25
	平年偏差	2.1	1.3	1.2	0.3	0.2	0.1	1.3	-0.18	-0.10
	標準偏差(σ)	0.9	0.9	1.0	0.7	0.7	0.7	1.7	0.21	0.21
	状況	著しく高め	かなり高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや低め	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	16.9	16.9	16.8	32.4	32.4	32.4	6.2	5.36	5.36
	平年値	15.9	15.9	15.9	32.1	32.1	32.1	5.1	5.35	5.32
	平年偏差	1.0	1.0	1.0	0.3	0.3	0.3	1.1	0.01	0.04
	標準偏差(σ)	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	1.3	0.30	0.33
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	平年並み	平年並み
燧灘	4地点平均値	17.2	17.2	17.2	32.7	32.8	32.8	7.7	5.57	5.41
	平年値	16.3	16.3	16.3	32.4	32.4	32.4	7.5	5.39	5.28
	平年偏差	0.9	0.9	0.9	0.3	0.3	0.4	0.2	0.18	0.13
	標準偏差(σ)	0.7	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7	2.5	0.32	0.34
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み

平年偏差 = 平均値 - 平年値

平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年(1973)1月～平成13年(2002)12月

溶存酸素：昭和48年(1973)2月～平成13年(2002)12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み  $0\sigma \leq \text{平年偏差} < 0.6\sigma$  ( $\sigma$  : 標準偏差)

やや高め (やや低め)  $0.6\sigma \leq \text{平年偏差} < 1.3\sigma$

かなり高め (かなり低め)  $1.3\sigma \leq \text{平年偏差} < 2.0\sigma$

著しく高め (著しく低め)  $2.0\sigma \leq \text{平年偏差}$

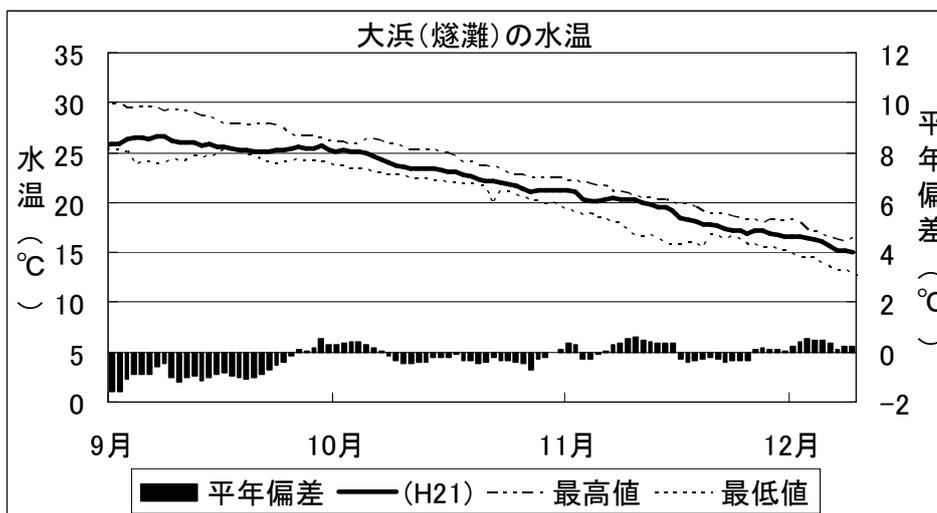
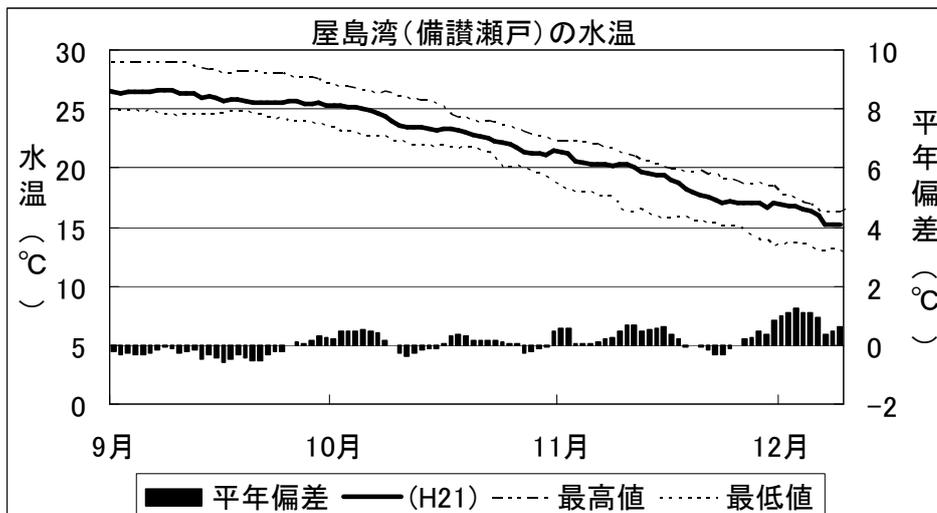
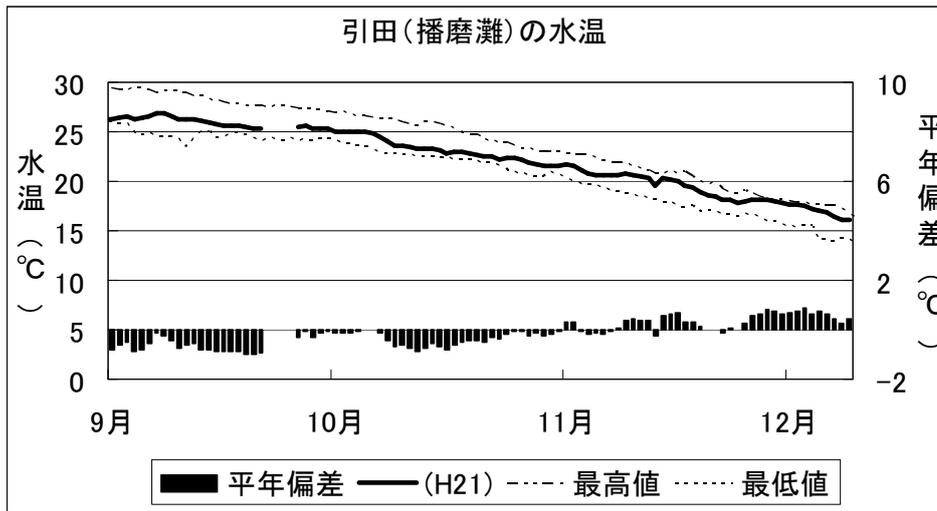
### 3) 定置観測 (水温)

播磨灘 (引田) : 9月以降, やや低めで推移していたが, 11月以降は平年並みかやや高めで推移している。

備讃瀬戸 (屋島) : 9月以降は平年並みで推移していたが, 12月はやや高めからかなり高めで推移している。

燧灘 (大浜) : 9月は, やや低めからかなり低めで推移していたが, 10月以降は概ね平年並みで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜 : 平成元 (1989) ~平成 20 (2008) 年  
屋島 : 昭和 50 (1975) ~平成 20 (2008) 年



#### 4) 赤潮 (11月25日～12月17日)

播磨灘：発生なし。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

#### 5) 卵稚仔

調査日：平成21年12月1日 (播磨灘), 2日 (備讃瀬戸, 燧灘)

出現量

		カタクチイワシ		マイワシ		その他の魚類	
		卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘	平均値	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	1.1
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0		
	対平年(%)	0	-	-	-		
備讃瀬戸	平均値	0.0	0.1	0.0	0.0	2.3	0.3
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.3		
	対平年(%)	0	-	0	0		
燧灘	平均値	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	2.0	0.4		
	対平年(%)	0	833	0	0		
総平均	平均値	0.0	0.1	0.0	0.0	1.3	0.5
	平年値	0.1	0.0	0.3	0.2		
	対平年(%)	0	1,111	0	0		

－：平年値が0の場合を示す。(その他の魚類については平年値がない。)

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55年(1980)～平成20年(2008)年度

マイワシ：平成5年(1993)～平成20年(2008)年度

今回の調査点ではカタクチイワシ卵は、確認されなかった。

## 2. 漁況

11月からの漁況は次のとおりである

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主にウシノシタ類, スズキ, 小エビ類, コウイカ類が漁獲されている。</p> <p>柵網では主にマアジ, タチウオ, マダイ, マボラ, カワハギが漁獲されているが, 低調である。</p> <p>東讃のしらす船びき網は, 11月上旬で漁期を終了したが, 本年漁期中の漁獲量は前年をやや上回る約900トンであった。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類, メイタガレイ, カワハギ, シロサバフグ, マダコ, イイダコ, ガザミ, コウイカ類, 小エビ類が漁獲されている。例年と比べて, イイダコ, ガザミが少ない。</p> <p>中讃・高松沖のたいらぎ潜水器漁業は12月6日から操業が開始され, 漁期始めの漁獲量は, 10~30Kg/隻・日と前年の3分1程度と低調である。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主にメイタガレイ, シロギス, タチウオ, マダイ (小), ガザミ, コウイカ類, 小エビ類, シャコが漁獲されている。</p> <p>柵網では主にマダイ, スズキ, タチウオ, マルアジ, カワハギ(小)が漁獲されている。</p> <p>さわら流し刺網の漁期中(10, 11月)のさわら漁獲量は前年に比べて3.3倍の約13トンで, 1, 2才魚主体の漁獲であった。</p>